

平成 30 年 10 月 31 日

各 位

会社名 サイオス株式会社
 代表者名 代表取締役社長 喜多 伸夫
 (コード番号 3744 東証第二部)
 問合せ先 常務執行役員 小林 徳太郎
 電 話 03-6401-5111

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、最近の業績動向を踏まえ、平成 30 年 2 月 5 日に公表した平成 30 年 12 月期連結業績予想を下記のとおり修正しましたので、お知らせいたします。

記

1. 連結業績予想の修正

(1) 平成 30 年 12 月期連結業績予想の修正 (平成 30 年 1 月 1 日～平成 30 年 12 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 13,000	百万円 330	百万円 330	百万円 260	円 銭 30.13
今回修正予想 (B)	12,400	70	80	0	0.00
増減額 (B-A)	△600	△260	△250	△260	—
増減率 (%)	△4.6%	△78.8%	△75.8%	—	—
(ご参考) 前年同期実績 (平成 29 年 12 月期)	12,470	320	326	△587	△68.11

(2) 修正の理由

アプリケーション事業においては、利益率が高い自社製品である MFP 向けソフトウェア(*)製品の売上および営業利益は下期にかけて回復基調にありますが、第 2 四半期の大型案件の受注減少による売上・営業利益の落ち込みを挽回できず、予想を下回る見通しです。

また、同事業においては、金融機関向けのシステム開発・構築支援の一部受注案件において開発に遅延が生じている他、利益率が高い自社製品である金融機関向け経営支援システム販売の主要顧客である地方銀行等の設備投資意思決定が長期化していることにより受注見込みが減少しております。

これらの影響により、アプリケーション事業全体で、通期予想を売上高が 600 百万円、営業

利益が 260 百万円下回る見込みとなっております。

上述の見通しにおいては、利益率の高い自社製品が多く含まれることにより、売上高よりも利益面での業績予想からの乖離が大きくなっており、平成 30 年 12 月期における当社グループの売上高、営業利益以下の各利益項目は、前回予想を大幅に下回る見込みです。

(*)MFP 向けソフトウェア

プリンタ、スキャナー、コピー、FAX 等複数の機能を搭載した機器を MFP(Multifunction Peripheral の略)という。MFP 上で利用できる文書管理ソフトウェア。

(注)本業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づくものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上